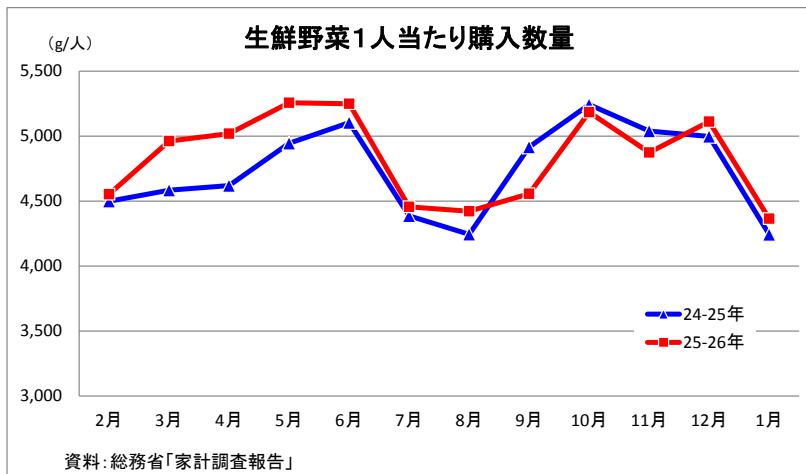


野菜の需給・価格をめぐる状況

1 生鮮野菜の購入数量の推移



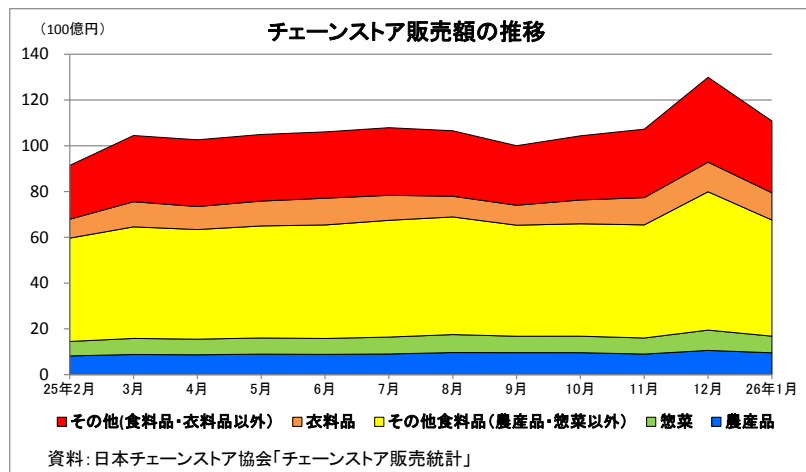
生鮮野菜の直近1年間で1人当たりの購入数量が一番多いのは、5月の5,257グラム、一番少ないのは、1月の4,364グラムであった。

9月から11月を除いて、前年の購入数量を上回って推移した。

また、3月から5月は前年をかなり上回った。

2 チェーンストアの販売動向

(1) 販売額の推移



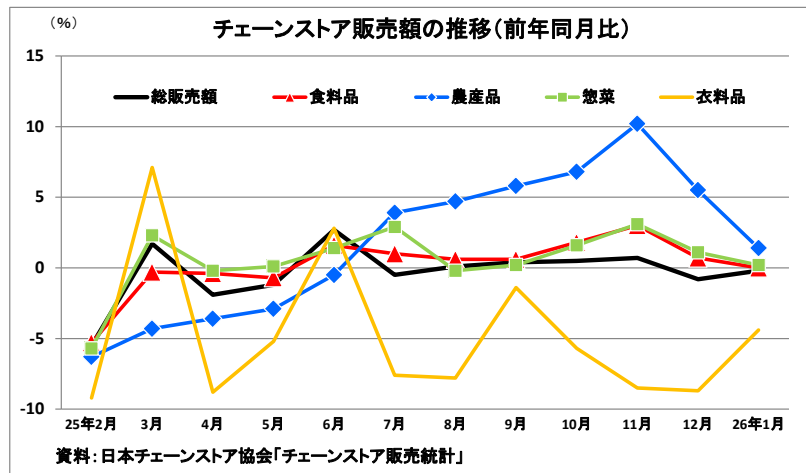
チェーンストアの直近1年間の総販売額の最高額は、12月の1兆2,990億円、最低額は、2月の9,104億円であった。

そのうち、農産品の最高額は、12月の1,062億円、最低額は2月の821億円であった。

また、惣菜の最高額は12月の886億円、最低額は2月の631億円であった。

農産品及び惣菜は、その他食料品に比べて月ごとの変動が少なく推移した。

(2) 販売額の前年同月比



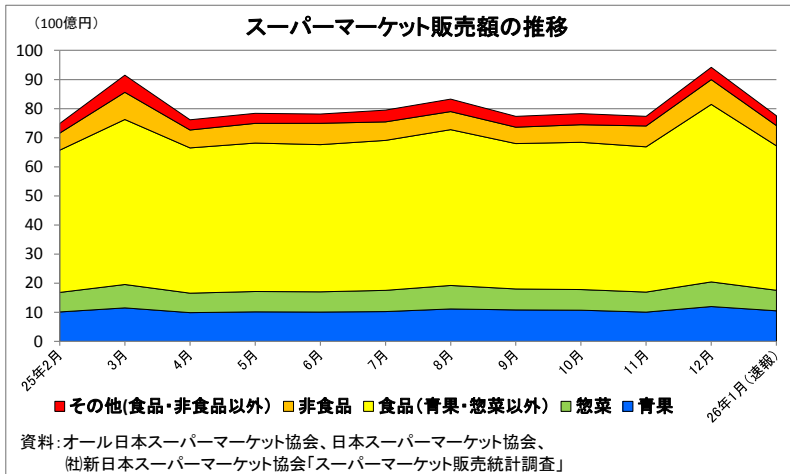
チェーンストアの直近1年間の総販売額は、7月までは3月及び6月を除いて前年を下回って推移した。8月以降は4ヶ月連続で前年を上回ったものの、12月以降は再び前年を下回って推移した。

そのうち、農産品は、6月までは前年を下回って推移したが、7月以降は7ヶ月連続で前年を上回って推移した。特に、11月はかなり上回った。

惣菜は、2月、4月及び8月を除いて前年を上回って推移した。9月以降は、5ヶ月連続で前年を上回って推移した。

3 スーパーマーケットの販売動向

(1) 販売額の推移



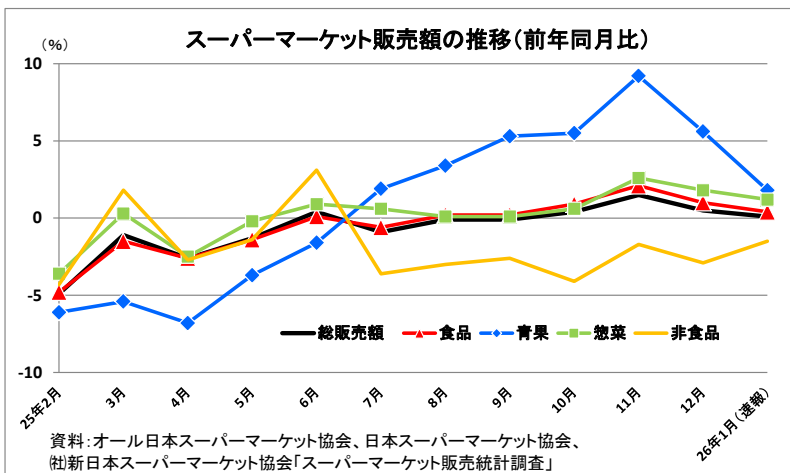
スーパーマーケットの直近1年間の総販売額の最高額は、12月の9,418億円、最低額は、2月の7,488億円であった。

そのうち、青果の最高額は、12月の1,200億円、最低額は4月の989億円であった。

また、惣菜の最高額は12月の846億円、最低額は4月の669億円であった。

青果及び惣菜は、その他食料品に比べて月ごとの変動が少なく推移した。

(2) 販売額の前年同月比



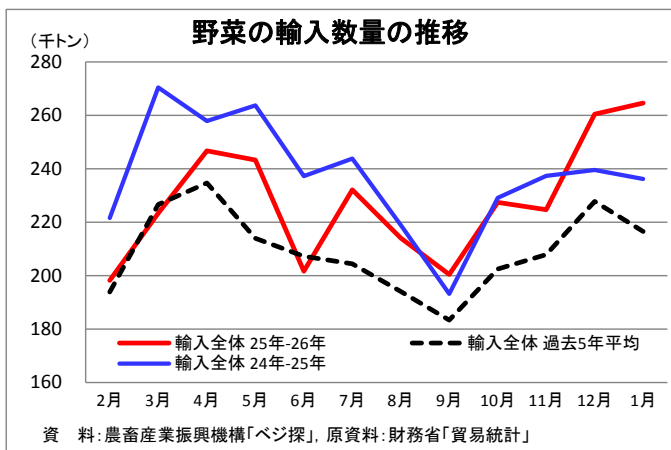
スーパーマーケットの直近1年間の総販売額は、9月までは6月を除いて前年を下回って推移した。10月以降は4ヶ月連続で前年を上回って推移した。

そのうち、青果は、6月までは前年を下回って推移したが、7月以降は7ヶ月連続で前年を上回った。特に、11月はかなり上回った。

惣菜は、5月までは2月を除いて前年を下回って推移したが、6月以降は、8ヶ月連続で前年を上回って推移した。

4 野菜の輸入動向

(1) 野菜全体の輸入数量



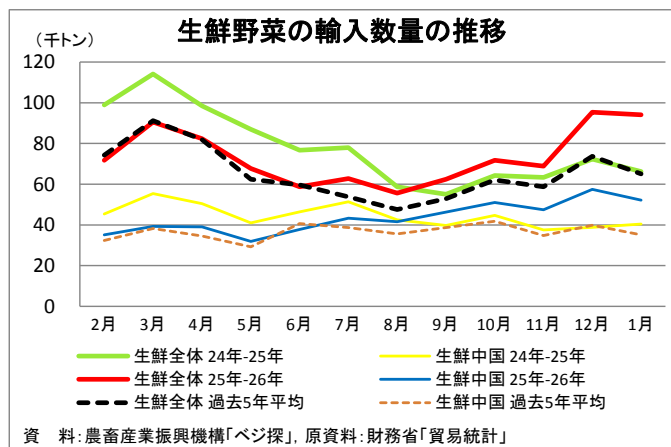
野菜の輸入数量は、2月を除いて期間を通じて毎月20万トンを超える輸入量となった。

前年が国産野菜の価格が平年を上回って推移したことから、前年の輸入量が多かったため、2月から8月まで7ヶ月連続で対前年を下回った。

特徴的な動きをみると、2月は、生鮮野菜の4割近くを占めるたまねぎの輸入量が国内産の豊作により、前年比61%、前年、輸入量が多かったかぼちゃが同64%と大幅に減少した。6月は、生鮮野菜及び冷凍野菜ともにばれいしょの輸入量が同65%、89%と大幅に減少したことから、輸入量が少なかった。

一方、9月以降国産野菜の価格が、台風、低温等の影響で上昇したことから、増加傾向に転じた。特に、たまねぎ、キャベツ、レタスの増加が見られる。

(2) 生鮮野菜の輸入数量

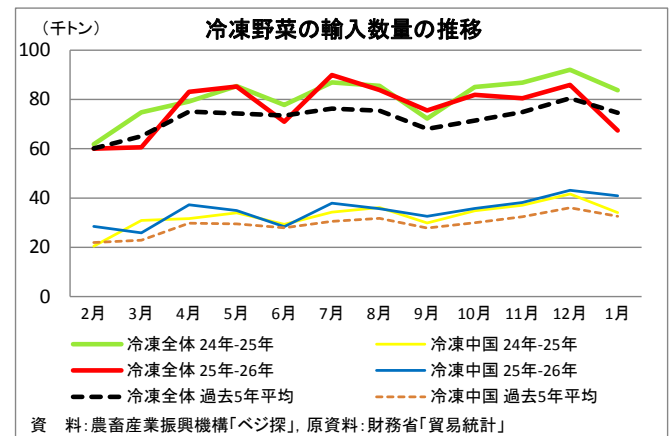


生鮮野菜の輸入数量は、国内産の生育が回復したことに加え、中国産たまねぎの不作や円安の影響で一部品目を除き輸入単価が上昇したことから、平成24年9月以降、25年8月まで連続して対前年を下回った。9月以降は、北海道産たまねぎが生育期の少雨等の影響で小玉傾向となり国内価格が上昇したこと等から、前年を上回った。

中国産の輸入数量は、平成24年8月から平成25年8月まで連続して前年を下回った。9月以降は北海道産たまねぎが少なくなったことから、前年を大きく上回った。

また、たまねぎの輸入数量については、25年9月から26年1月までの輸入量が、中国が97,448トン(対前年同期比: 141%)、米国が17,583トン(同: 175%)と大きく上回った。

(3) 冷凍野菜の輸入数量



冷凍野菜の輸入数量は、平成25年2月、3月及び26年1月を除き、期間を通じて毎月7万トンを超える輸入数量で推移した。

なお、25年2月、3月及び26年1月は、ばれいしょの輸入数量が前年比で2月は68%、3月は67%、1月は85%と大幅に減少した。

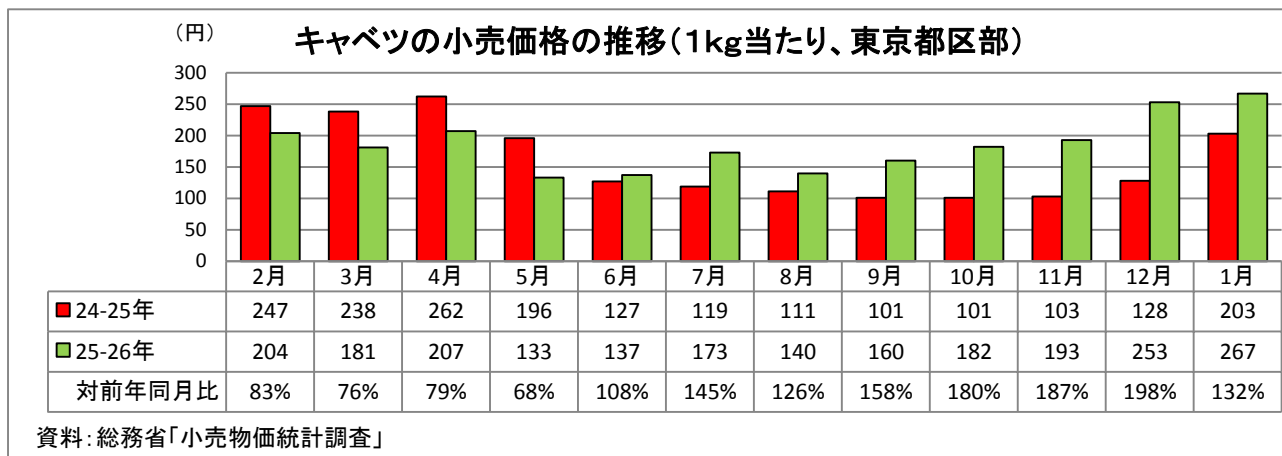
中国産の輸入数量は、全期間を通じて、過去5ヶ年平均を上回った。

また、輸入数量が多いほうれんそうをみると、期間中で3月、6月及び12月を除く各月で前年を上回った。

(参考) 品目別小売価格及び家計消費

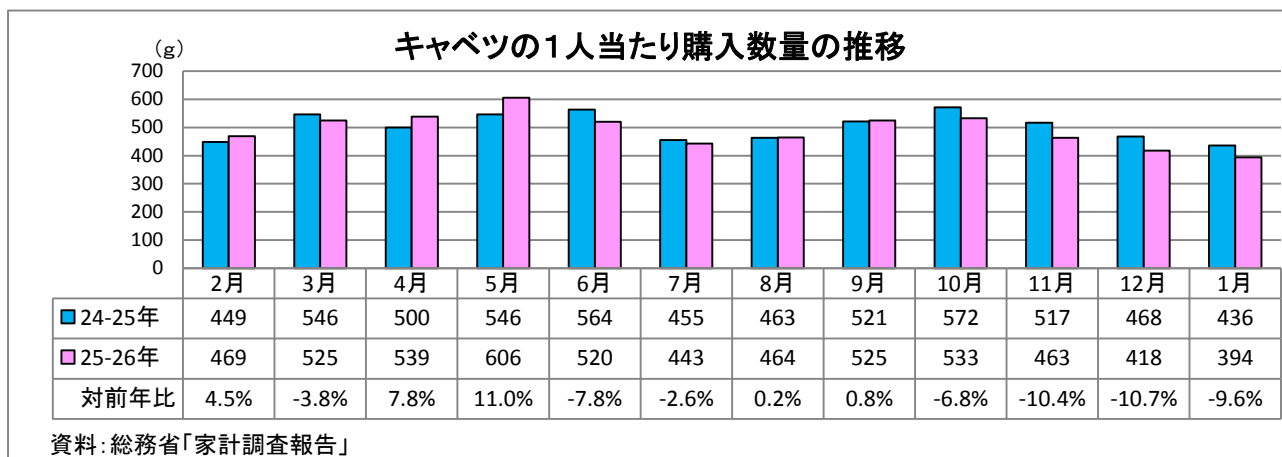
1 キャベツ

(1) 小売価格 (東京都区部)

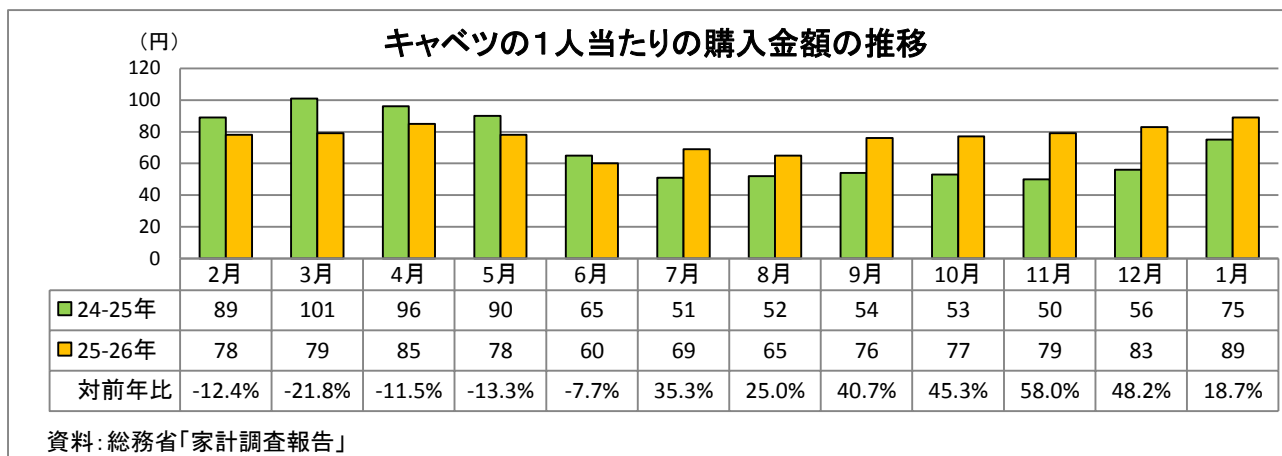


(2) 家計消費

① 1人当たり購入数量

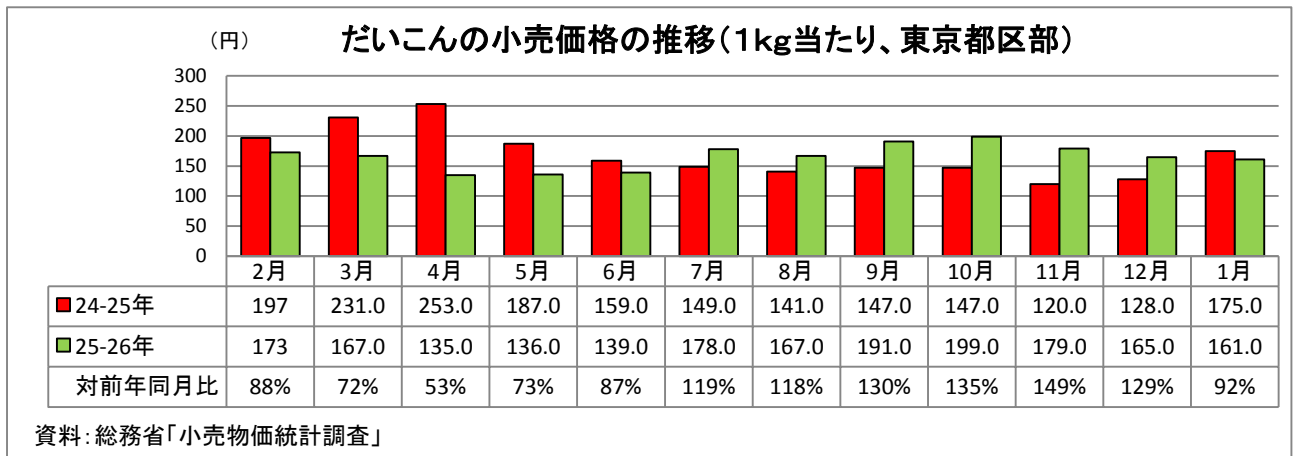


② 1人当たり購入金額



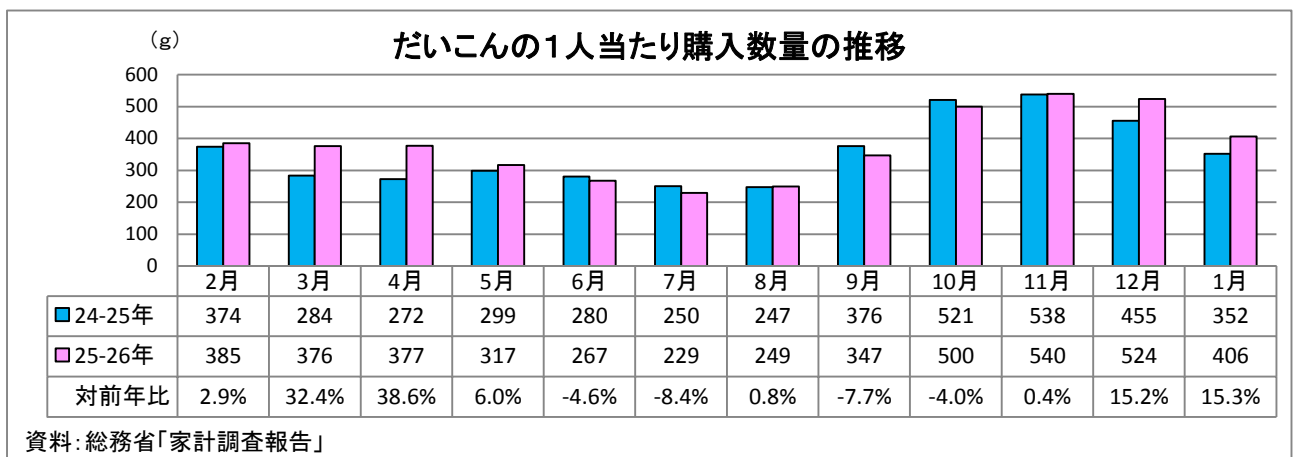
2 だいこん

(1) 小売価格（東京都区部）

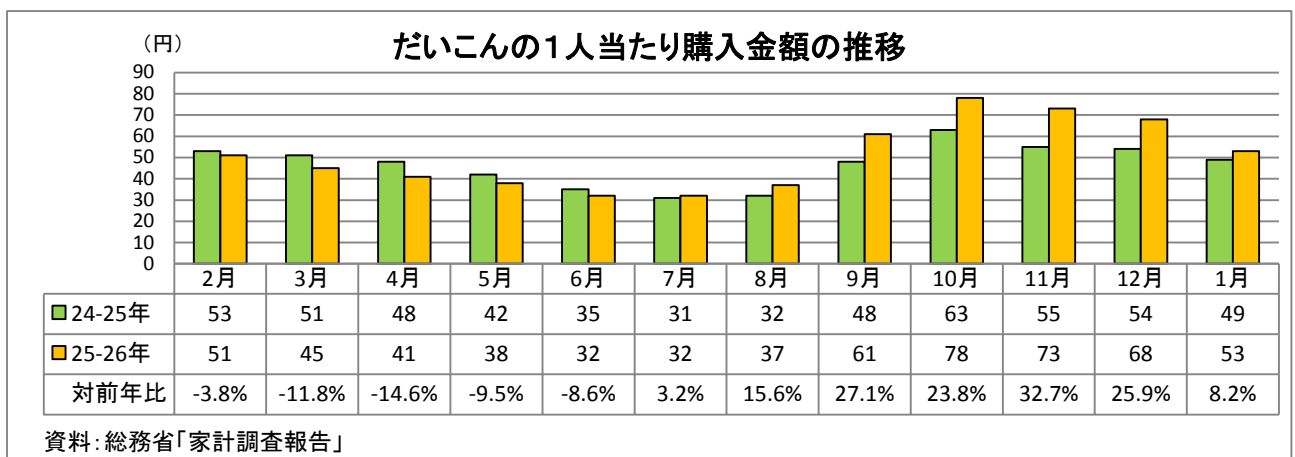


(2) 家計消費

① 1人当たり購入数量

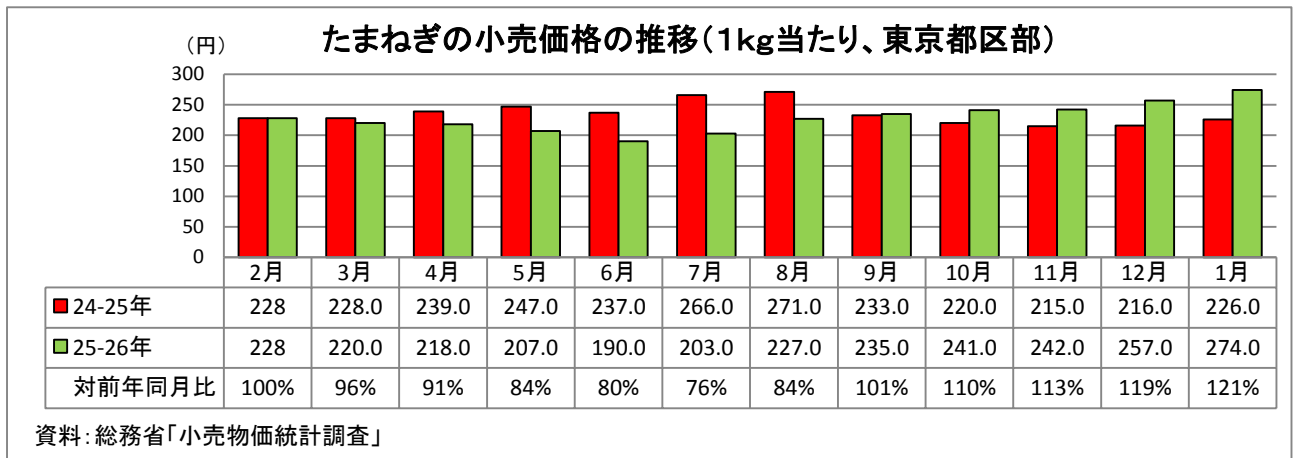


② 1人当たり購入金額



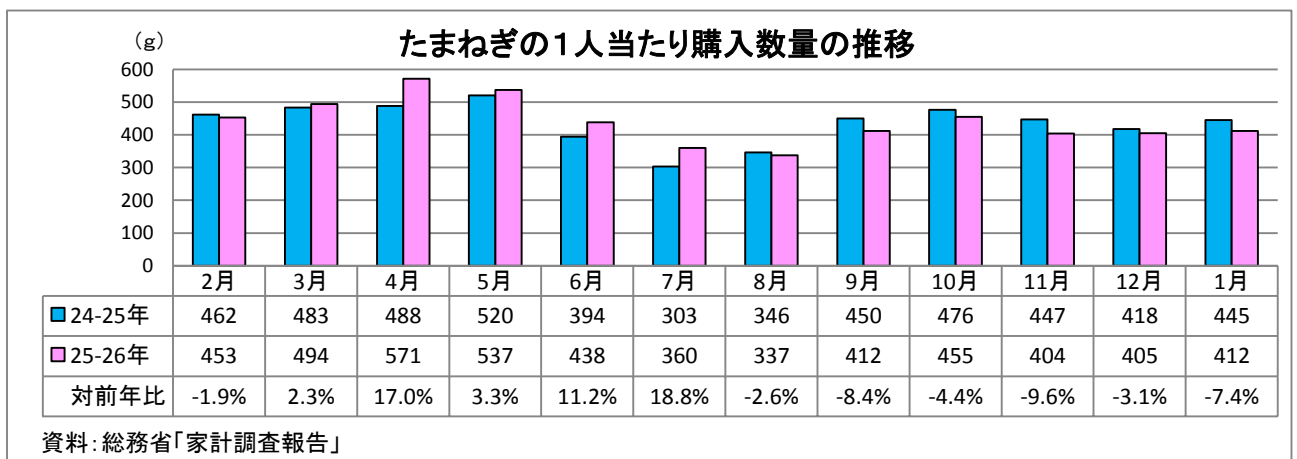
3 たまねぎ

(1) 小売価格（東京都区部）

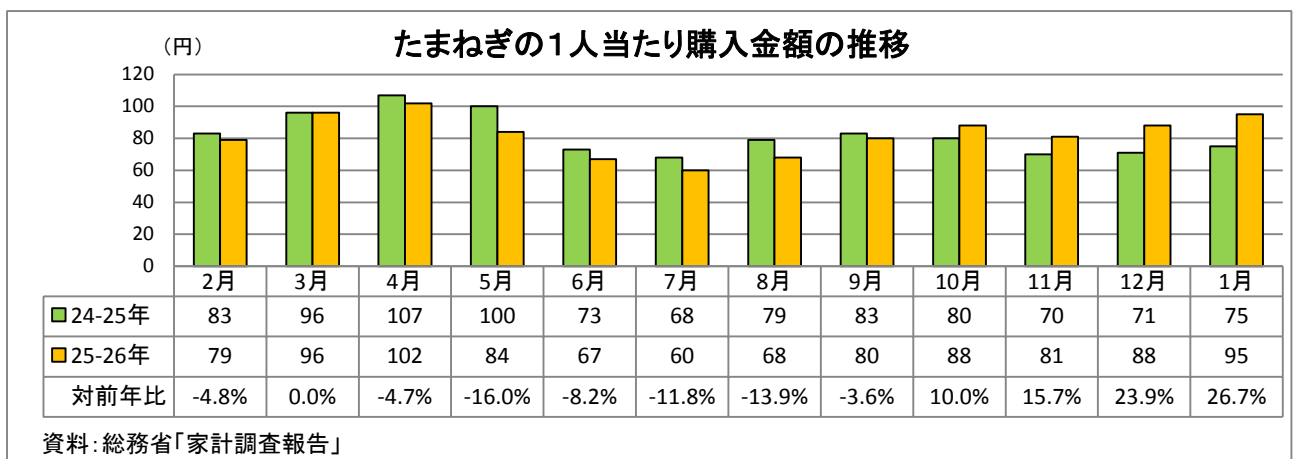


(2) 家計消費

① 1人当たり購入数量

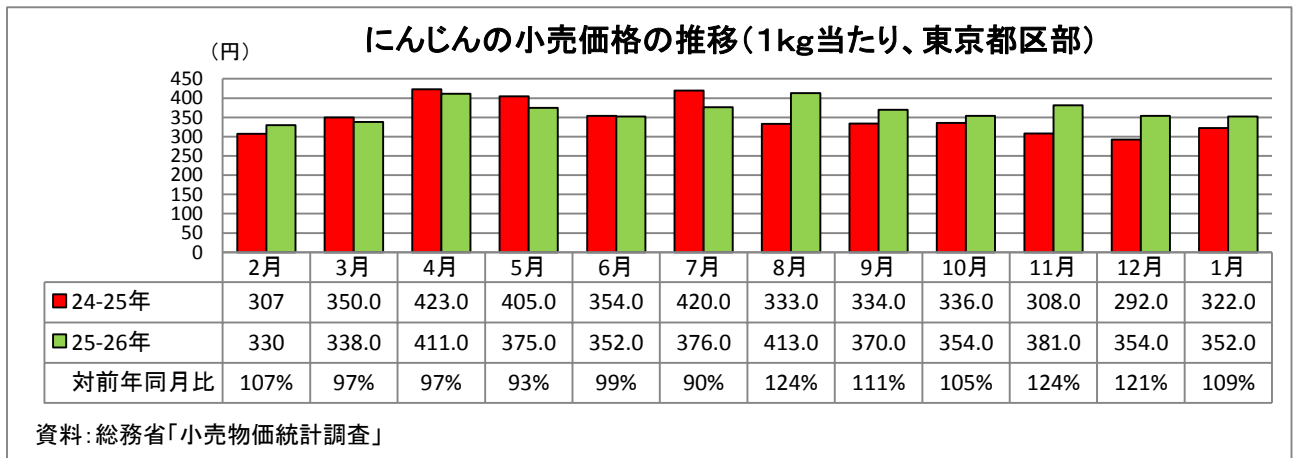


② 1人当たり購入金額



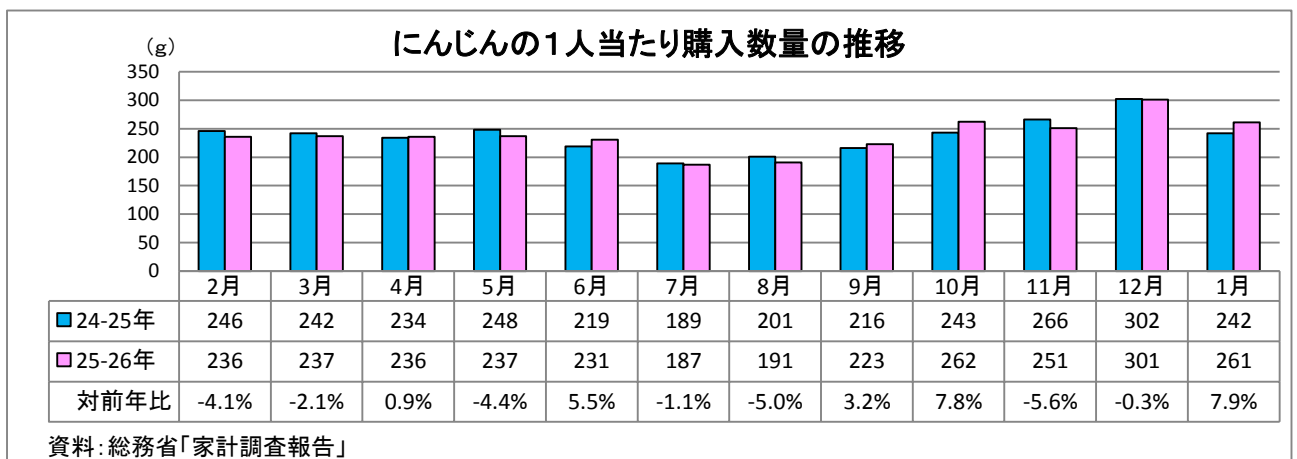
4 にんじん

(1) 小売価格（東京都区部）

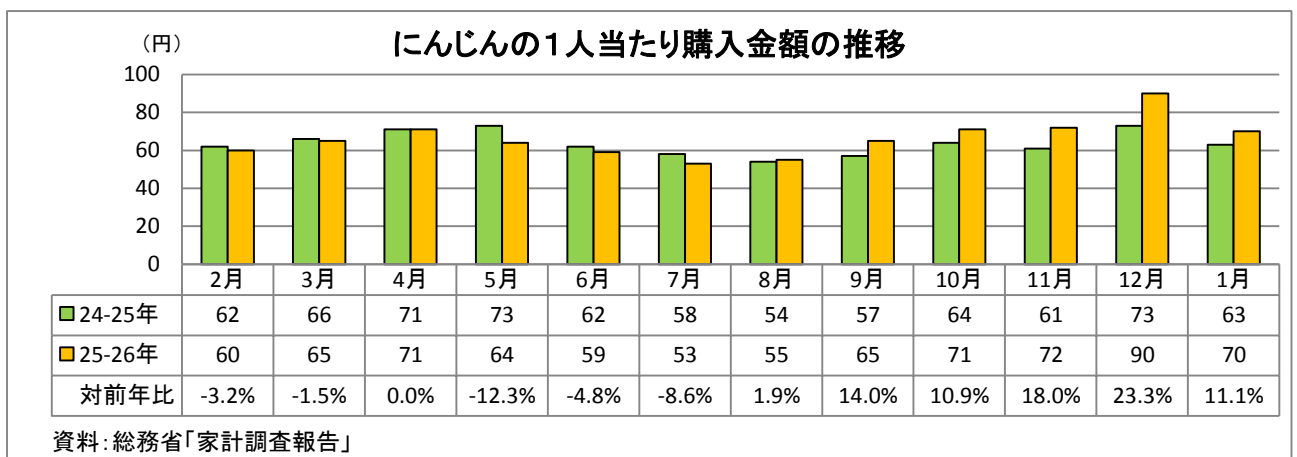


(2) 家計消費

① 1人当たり購入数量

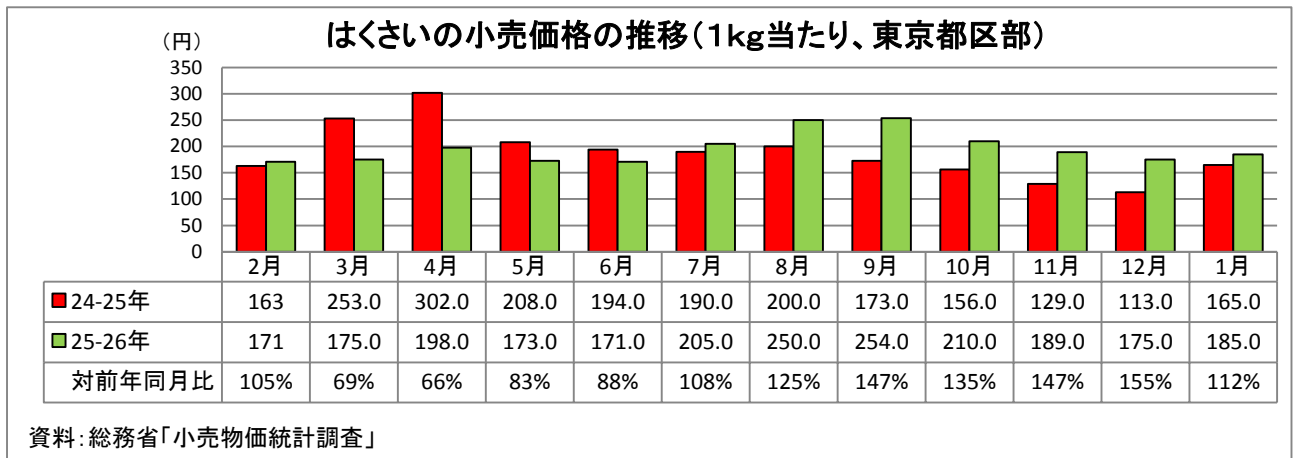


② 1人当たり購入金額



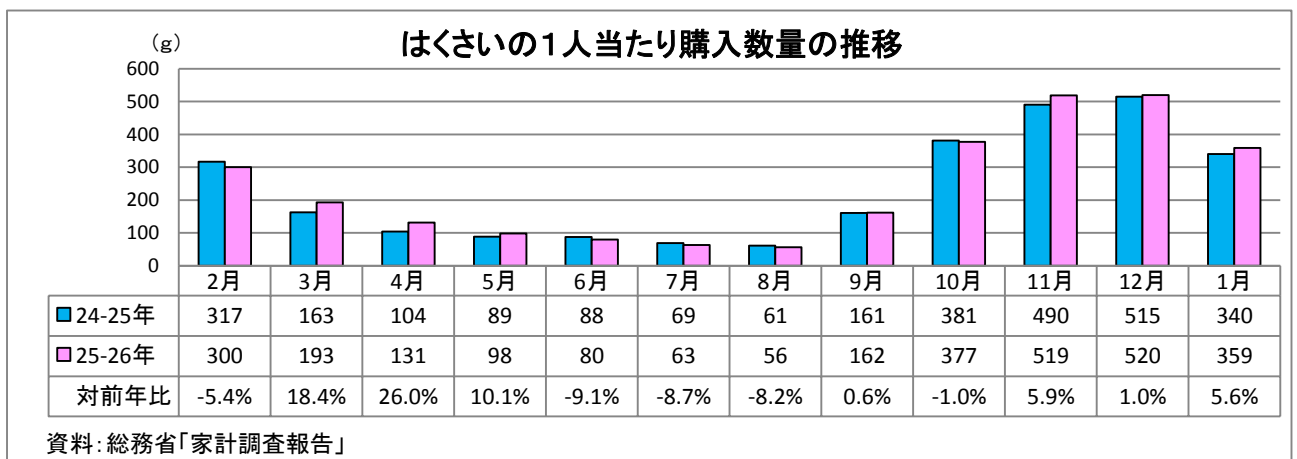
5 はくさい

(1) 小売価格（東京都区部）

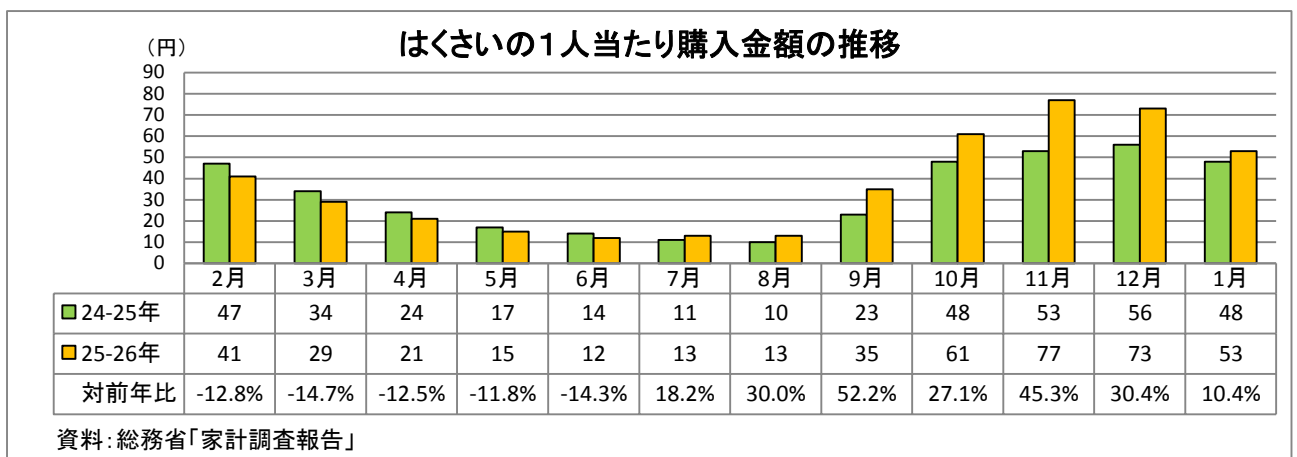


(2) 家計消費

① 1人当たり購入数量

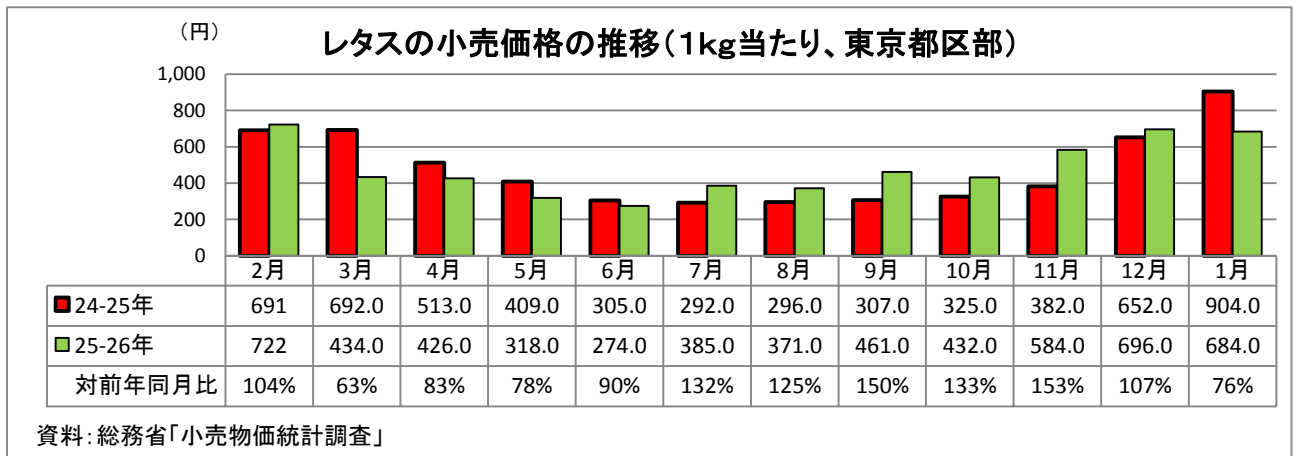


② 1人当たり購入金額



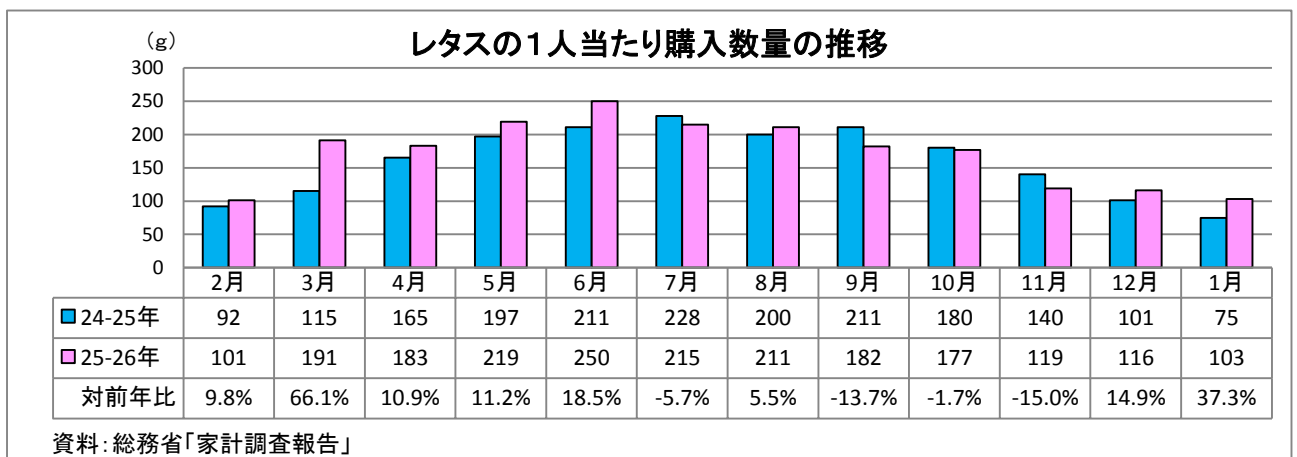
6 レタス

(1) 小売価格（東京都区部）



(2) 家計消費

① 1人当たり購入数量



② 1人当たり購入金額

